

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2017/01/06

トランプ・ラリーの持続性がカギに

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	➡	市場のムードに流されやすい 予想レンジ: 81.000 ~ 89.000 円	2 - 3
NZドル/円	↘	中国に注目 予想レンジ: 77.500 ~ 83.500 円	4 - 5
ランド/円	➡	9円台が視野に 予想レンジ: 8.100 ~ 9.200 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



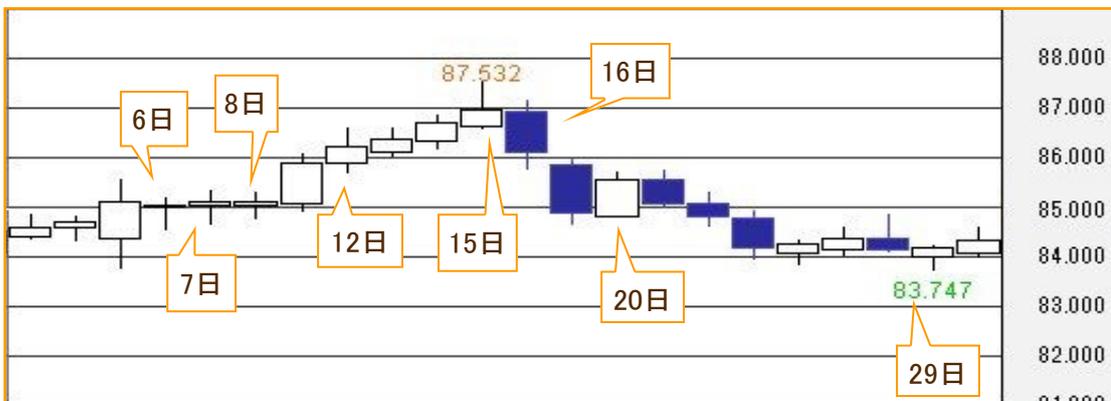
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 12月の推移

AUD/JPY

12月の豪ドル/円は、83.747～87.532円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.2%の小幅な下落(豪ドル安・円高)となった。上中旬はトランプ・ラリーによる株高・円安の流れを受けて11カ月ぶりの高値を付けるなど堅調だったが、下旬にかけては中国人民元安の影響などもあって、豪ドル安・ドル高基調が強まると、豪ドル/円にも下落圧力が掛かった。ドルが主役の相場展開の中で、前半は円安の影響を受けて上昇した一方、後半は豪ドル安の影響を受けて下落した格好だ。結果的に、豪ドル/円相場は「往って来い」の形となり、月足はほぼ寄り引同値の十字線で引けた。



四本値

OPEN	84.423
HIGH	87.532
LOW	83.747
CLOSE	84.337

6日	RBAは事前予想通りに政策金利の据え置き(1.50%)を決定。声明文で「豪ドル高が経済的な調整を複雑化する可能性」「政策スタンスを変更しないことが経済の持続可能な成長と、時間をかけてインフレ目標を達成することに一致すると判断」「賃料の伸びは数十年で最も鈍い」「労働市場の指標は幾分まちまち」「第3四半期の成長率がマイナスとなる可能性がある」などとの見解を示した。
7日	豪7-9月期国内総生産(GDP)は前期比-0.5%、前年比+1.8%と予想(-0.1%、+2.2%)を下回った。これを受けて、一時豪ドル売りが強まる場面があった。
8日	豪10月貿易収支は15.41億豪ドルの赤字と予想(6.10億豪ドルの赤字)より弱い結果となった。なお、中国11月貿易収支は446.1億ドルの黒字(予想:469.0億ドルの黒字)、内訳の輸出は前年比+0.1%、輸入は同+6.7%(予想:-5.0%、-1.9%)という結果であった。
12日	前週10日に石油輸出国機構(OPEC)と非加盟国が会合を行い、15年ぶりの協調減産に合意した。これを受けて、週明けから資源国通貨買いが活発化する中、豪ドル/円も上昇した。
15日	豪11月雇用統計は、失業率が5.7%と予想(5.6%)より弱かった一方、就業者数は3.91万人増と予想(1.75万人増)を上回った。労働参加率が64.6%に上昇(前回64.4%)したことから失業率の悪化には反応を示さず、就業者数の増加を好感して豪ドル買いが優勢となった。その後、欧州株の上昇などを受けて円売りが活発化すると87.532円まで上昇して、1月4日以来の高値を付けた。
16日	中国が南シナ海で米海洋調査ドローンを拿捕したとの報道を受けてNYダウ平均が急反落。リスク回避の豪ドル売り・円買いが強まった。なお、米政府は接收された潜水ドローンの返還を中国に要請し、「中国が国際水域でドローンを接收したのは違法」との見解を示した。
20日	RBA理事会の議事録が公表され、「住宅市場の全体的な状況は強くなっている」「労働市場の勢いには引き続き多大な不確実性がある」「最近の豪ドルは対米ドルで下落した」などとする見解が示された。その後、黒田日銀総裁が「円安は『驚くような水準』でない」などと円安容認的な発言を行うと円安・豪ドル高が進行した。
29日	中国からの資金流出懸念などを背景に、オフショア人民元相場が一時1ドル=6.9873元まで上昇して(人民元の)過去最安値を更新した。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	18535.24
HIGH	19592.90
LOW	18227.39
CLOSE	19114.37

NYダウ平均

OPEN	19149.20
HIGH	19987.63
LOW	19138.79
CLOSE	19762.60

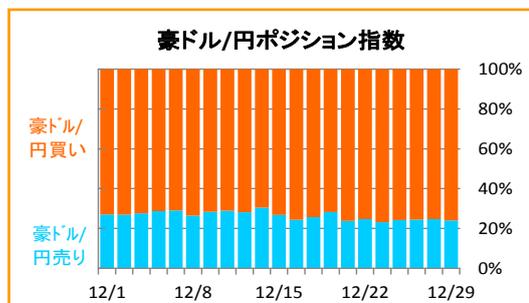
上海総合指数

OPEN	3257.027
HIGH	3279.714
LOW	3068.415
CLOSE	3103.637

豪10年債利回

OPEN	2.794%
HIGH	2.932%
LOW	2.714%
CLOSE	2.765%

12月のポジション動向



1月の豪州・中国の注目材料

- ・12月中国財新製造業PMI(3日)
- ・11月豪貿易収支(6日)
- ・12月中国外貨準備高(7日)
- ・11月豪住宅建設許可(9日)
- ・12月中国消費者物価指数(10日)
- ・11月豪小売売上高(10日)
- ・12月中国貿易収支(13日)
- ・12月豪雇用統計(19日)
- ・12月中国鉱工業生産(20日)
- ・12月中国小売売上高(20日)
- ・10-12月期中国GDP(20日)
- ・10-12月期豪消費者物価(25日)

1月の見通し

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

1月の豪ドル/円相場は、市場のリスク選好度合いに左右される展開となりそうだ。株高・資源高を牽引してきたトランプ・ラリーが、トランプ氏の大統領就任後も続くのかどうか焦点となろう。なお、トランプ次期米大統領の記者会見が11日に予定されており、20日には大統領就任式に臨み就任演説が行われる。保護主義的な過激発言が飛び出せばリスクオフ要因となりやすく、豪ドル/円の重しとなる可能性があるため要注意だろう。ただ、そうした過激発言はツイッター上のものが目立ち、公式発言の場では控える事も考えられる。実際に大統領選後の勝利演説では優等生的な融和発言を行いリスク・オンムードへの転換を促した。

なお、1月は豪州の夏季休暇シーズンにあたるため、豪準備銀行(RBA)理事会は行われない。この点からも豪ドル/円相場は、市場のムードに左右されやすくなるだろう。(神田)

(予想レンジ: 81.000~89.000円)

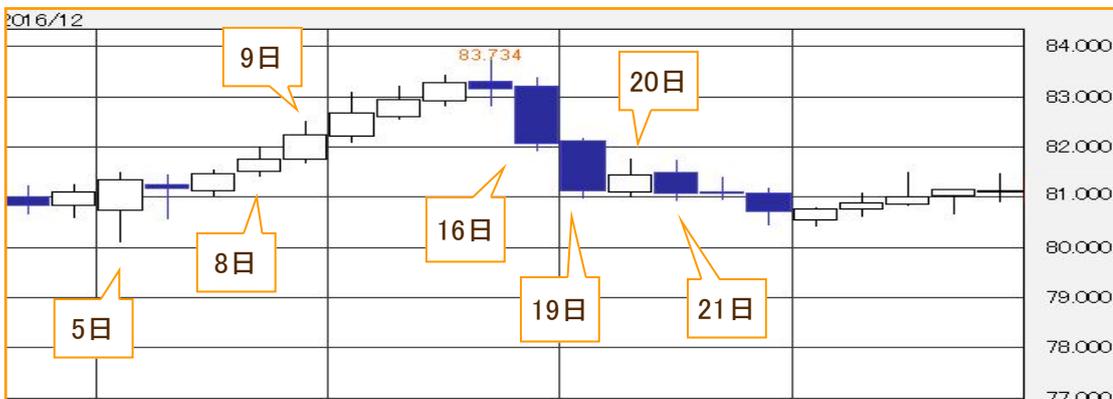
NZドル/円 12月の推移

NZD / JPY

12月のNZドル/円相場は80.128～83.734円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.1%の小幅上昇(NZドル高・円安)となった。

11月の米大統領選後、トランプ次期大統領が財政拡張的な政策を行うとの期待から株高が進むと、一般的に「リスク・オン」の流れとなった。これを受けてNZドル/円は15日に83.734円まで上昇したが、米中間の緊張の高まりなどによるリスク回避の動きとなった事から上げ幅を縮小。その後はクリスマスシーズンで市場参加者が減少する中、81円を挟んでの狭いもみあいとなった。

なお、5日にキーNZ首相が突然の辞任を発表したが、その際に後任に指名したイングリッシュ財務相が新首相に就任(12日)し、主要閣僚を留任させたため、影響は限定的であった。



四本値

OPEN	81.016
HIGH	83.734
LOW	80.128
CLOSE	81.140

5日	イタリアで4日に行われた憲法改正の是非を問う国民投票の出口調査で反対派が優勢と報じられ、レンティ首相が敗北を宣言して辞意を表明。これを受け、ユーロ/円の下げに連れてNZドル/円は一時80.128円まで下落した。その後、キーNZ首相が突然辞意を表明した。ただ売りの勢いが一巡すると、欧米株高などを手掛かりに切り返した。
8日	NZ政府は2016/17年(16年7月～17年6月)の財政収支について、4.73億NZドルの黒字になるとの見通し(従来は7.19億NZドル)を示した。11月に発生した大規模な地震発生により関連コストが発生するためとしている。
9日	NZ準備銀行(RBNZ)のウィーラー総裁が「主要政策金利は当面は現行水準に留まる」「中銀の政策金利見通しは外為相場、移民、住宅価格の上昇などに左右される」などの見方を示した。
16日	「中国が米国の潜水無人機を接收」と報じられると、米中間での緊張の高まりを嫌気してリスク回避の動きが強まり、NYダウ平均が下げに転じた。これを受け、NZドル/円は81.944円まで下落した。
19日	「駐トルコ露大使が銃撃された」との報道を受け、リスク回避の動きが強まると、NZドル/円は80.996円まで下落した。
20日	NZ11月貿易収支は7.05億NZドルの赤字(予想:5.00億NZドルの赤字)となった。ただ、NZドル相場の反応は薄かった。
21日	NZ10-12月期国内総生産(GDP)が前期比+1.1%と予想(+0.8%)を上回った。これを受け、発表直前に80.953円まで下落したNZドル/円は下げ幅を縮小。ただ、前年比は+3.5%と予想(+3.6%)をわずかに下回ったため、買いの勢いは続かなかった。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	18535.24
HIGH	19592.90
LOW	18227.39
CLOSE	19114.37

NYダウ平均

OPEN	19149.20
HIGH	19987.63
LOW	19138.79
CLOSE	19762.60

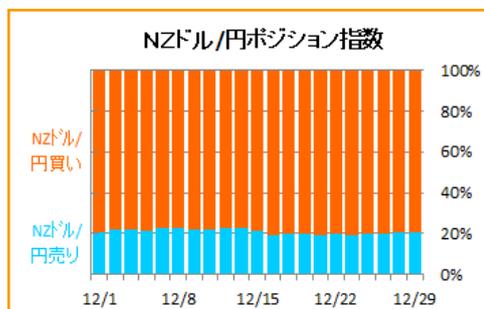
上海総合指数

OPEN	3257.027
HIGH	3279.714
LOW	3068.415
CLOSE	3103.637

NZ10年債利回

OPEN	3.168%
HIGH	3.476%
LOW	3.165%
CLOSE	3.329%

12月のポジション動向



1月のNZの注目材料

- ・NZフォンテラ入札(3日、17日)
- ・12月NZ企業景況感(PMI)(18日)
- ・11月NZ住宅建設許可(18日)
- ・10-12月期NZ消費者物価指数(25日)
- ・12月NZ貿易収支(30日)
- ・10-12月期NZ失業率(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

1月の見通し

1月のNZドル/円は、3日に中国12月財新/製造業PMIの好結果を受けて82円台に乗せるも、5日にドル/人民元相場でもドル安・元高が進んだ事によるドル/円の下げに連れて81円を割るなど、中国発の材料に一喜一憂となっている。今月は中国で12月貿易収支(13日)を始め、10-12月期GDPや12月鉱工業生産(いずれも20日)などが予定されている。中国経済に対する不透明感が根強い中、予想より弱い結果が相次ぐようならば15年1月と同様に中国発のリスク回避ムードに備える必要も出てくるだろう。昨年に引き続き、今年も中国から目が離せない展開となりそうだ。

テクニカル面では、日足の一目均衡表(本稿執筆時点)で転換線が基準線を下抜けたほか、運行線がローソク足を下抜こうとするなど、上昇が一服した可能性を示唆している。12月26日安値(80.448円)を下抜けると、1ヵ月以上に渡り上昇してきた相場が調整局面を迎える公算であり、目先は雲(同:76.954円~78.428円)に向けて一段安もあるだろう。(川畑)

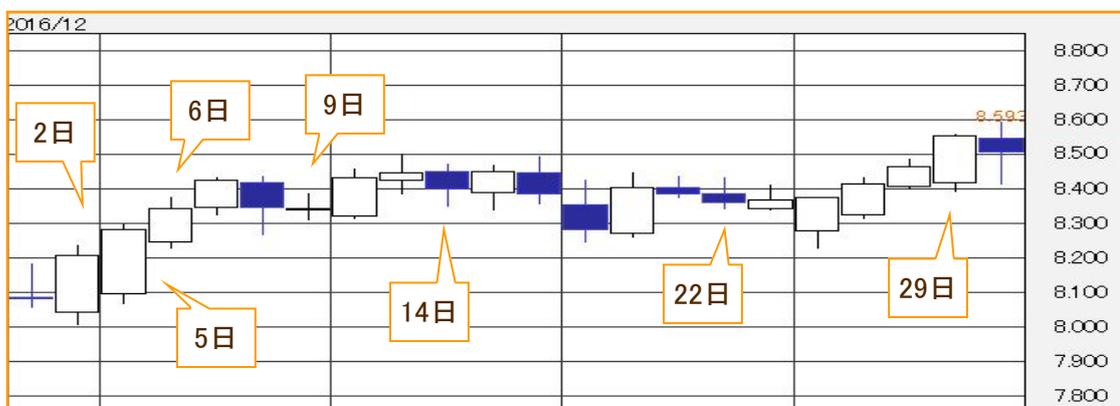
(予想レンジ:77.500~83.500円)

ランド/円 12月の推移

ZAR/JPY

12月のランド/円相場は8.010～8.593円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約5.0%の上昇(ランド高・円安)となった。

前月の米大統領選後、トランプ次期大統領が財政拡張的な政策を行うとの期待から株高が進むと全般的に「リスク・オン」の流れとなった。これを受けてランド/円は堅調に推移すると、30日に8.593円まで一段高となった。その間、米中間の緊張の高まり(16日の中国による米国潜水無人機接收)や駐トルコ露大使の銃撃(19日)などでリスク回避の動きとなる場面が見られるも一時的であった。一部で懸念されていた格下げが回避された(2日に格付け会社S&Pが据え置きを発表。フィッチとムーディーズは11月末に発表)事や、トルコ(テロや金融政策)やメキシコ(米国との通商政策)と比べて南アフリカに目立った売り材料が見当たらなかった事も、上昇を後押しした模様である。



四本値

OPEN	8.087
HIGH	8.593
LOW	8.010
CLOSE	8.510

2日	格付け会社S&Pは、南アフリカの外貨建て格付けを据え置く(格付けは投資適格級で最低のBBBマイナス、見通しはネガティブ)と発表した。一部で懸念されていた格下げが見送られた事でランド買いが優勢となった。
5日	イタリアで4日に行われた憲法改正の是非を問う国民投票の出口調査で反対派が優勢と報じられ、レンティ首相が敗北を宣言して辞意を表明。これを受け、ユーロ/円の下げに連れてランド/円は一時8.069円まで下落。ただ、その後はユーロ/円の反発に伴って反発した。
6日	南ア7-9月期国内総生産(GDP)は前期比年率+0.2%と予想(+0.6%)を下回る伸びとなったが、前年比は+0.7%と予想通りであった。
9日	南ア7-9月期経常収支は対GDP比で4.1%の赤字(予想:3.6%の赤字)となった。
14日	南ア11月消費者物価指数は事前予想通り前年比+6.6%となり、2月(7.0%)以来の高い伸びを示した。しかし、南ア10月小売売上高は前年比-0.2%と予想(+1.2%)外の低下となった。
22日	南ア7-9月期財政収支は163.3億ランドの赤字(前回:309.1億ランドの赤字)であった。
29日	南ア11月貿易収支は11億ランドの赤字(予想:6億ランドの赤字)であった。

日経平均

OPEN	18535.24
HIGH	19592.90
LOW	18227.39
CLOSE	19114.37

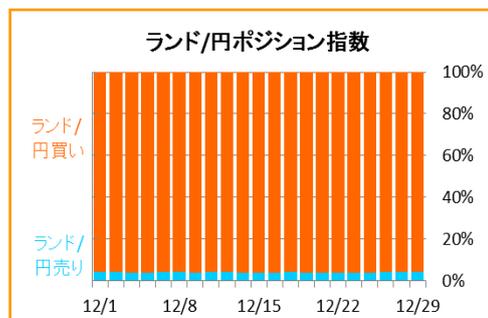
NYダウ平均

OPEN	19149.20
HIGH	19987.63
LOW	19138.79
CLOSE	19762.60

N Y 金

OPEN	1175.10
HIGH	1190.20
LOW	1124.30
CLOSE	1151.70

12月のポジション動向



1月の南アフリカの注目材料

- ・12月南ア消費者物価指数(18日)
- ・11月南ア小売売上高(18日)
- ・SARB政策金利発表(24日)
- ・12月南ア生産者物価指数(26日)
- ・12月南ア貿易収支(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

1月の見通し

ランド/円相場は、12月に入り26週移動平均線が52週移動平均線を上抜く「ゴールデンクロス」が点灯した後も堅調に推移。30日に8.593円まで上昇して、2014年11月高値10.804円～2016年1月安値6.213円の下げ幅の1/2戻し(8.509円)を達成した。1月に入ってからも8.60円台まで上値を伸ばしており、上昇の流れは続いていると考えられる。高値更新が相次ぐようならば、前述の下げ幅の61.8%戻し(9.050円)に向けた一段高もあるだろう。

今月の金融政策発表について、南ア準備銀行(SARB)が利上げを見送る可能性がある。足元のインフレ率はSARBの目標レンジ(年3～6%)を上回ったとはいえ、11月小売売上高が2014年6月以来の減少となった事や、7-9月期GDP・前期比が予想を大きく下回る伸びに留まった事など、個人消費の弱さが目立つためである。その際に発表される声明で、今後の政策スタンスについて言及があれば材料視されるだろう。(川畑)

(予想レンジ: 8.100～9.200円)